

現場突撃型ローカルマガジン

ながもの がた 3



始めたそのあとを、たどってみる。

つながるマルシェ出店記

～南加茂台の中心で、出会いが増えた日～

仲間がいたからできたこと

～南加茂台でひらいた最初の一步～

ながもだい公民館で、ディスコイベント?!

住んでいるまちで、楽しいことを。

ながもの道でちょっと立ち話

ラジオ番組作ってみた!第一回収録!

～5丁目まちかどラジオ～

南加茂台の中心で、出会いが増えた日。 /

つながるマルシェ 出店記

ガス屋さん「いづつや」が、1日だけ「まちの居場所」になりました！

前号で紹介した、南加茂台のガス屋さん「山城ガスセンターいづつや」。

その場所で開かれた「つながるマルシェ」に、

今回は出店者として参加しました。

机の上に手づくりが並び、

ふだんは静かな通りに人の声が増えていく。

買い物だけでなく、

立ち話や紹介が生まれて、

いづつやが人が集う場所になった一日でした。

写真 / Iwai Yumi

南加茂台の中心地にある「山城ガスセンターいづつや」。前号で紹介したこの場所で、11月23日と24日の二日間、マルシェがおこなわれました。

当日は木津川市内のお店が集まり、コーヒー、お菓子、お野菜、雑貨、サロンなどが小さな屋台のように並びます。入口から店内へ入るとコーヒーの香ばしいにおいが漂い、商品を手に取って見比べる人の姿があちこちに。「これ、いいね」と声をかけ合う場面もありました。また、木津川市内で活動する作家さんのワークショップや、タロットリーディング



ングを体験できるブースも。来場者は近所の方が多く、出店する側にも南加茂台に住む人の姿がありました。

キーホルダーづくりの体験では、机の上に道具や材料がずらり。こどもが手を動かし、その横で大人も同じテーブルを囲みます。途中経過を見せ合ったり、作り方をたずねたり。周りの空気を和ませてくれるような温かい雰囲気でした。

店先には看板が立ち、店内では人の出入りが途切れません。普段の南加茂台ではあまり見ない光景でした。

私の妄想から生まれたお店

「くりのみ工房」として出店！！



生クリームを使わず、豆腐で作ったチーズケーキを販売

ありがとうございますー！



いらっしゃいませ！

前夜の件簿



私は地域おこし協力隊として、「くりのみ工房」という架空のお店をつくらせて出店しました。地図にも、看板にも載っていない、妄想から生まれた工房です。

一年前、南加茂台に来たときは、まさか自分がここで出店しているなんて思っていませんでした。誰も知らないまちだったのに、気づけば顔見知りの人が増えていて、声をかけてもらえる。そのことが、とてもうれしかったです。顔なじみの人が立ち寄ってくれるたび、「ここで暮らす時間が積み重なっていると感じました。

……と、当日はわりと落ち着いて書いていますが、前日はけっこうバタバタでした。準備でチーズケーキを8ホール焼いたのに、まさかの卵を入れ忘れるという失態。オーブンの前で「なんか膨らんでないな」と思った瞬間に、頭の中で答え合わせが始まりました。もちろん、そのまま商品にはできません。ちょっと落ち込んだし、時間も材料も、正直くやし。でも、こういう失敗も含めて「出店する」ということなんだなと自分なりに納得できる経験になりました。

机の上のレシピを見返して、段取りを組み直して、次は同じミスをしないように準備する。その一連が、いつの間にか経験になっていく感じがありました。

シルクスクリーン体験！

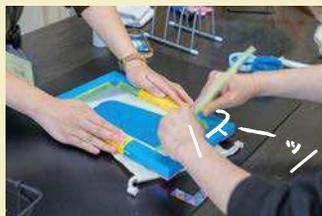
シルクスクリーンを体験できるブースも作りました！
ポストカードか巾着袋かを選んで自分の手で刷る！
刷るプリント方法で、めくった瞬間に柄が出るのが楽しいところ。



1. インクをのせて↓



2. 9ばいて〜



3. 完成！！



体験ブースを担当して気づいたのは、シルクスクリーンが上手い・下手よりも「やってみた！」が残る体験だということです。自分の手で刷った一枚には、その人の今の気分や選んだ色まで映る。

持ち帰る作品が、その日の思い出のしおりになっていたら嬉しいなと思いました。

仲間がいたからできたこと

南加茂台でひらいた最初の一步



つなばりから生まれる
小さな一歩も大切に♡
それをつなばるマルシェ♡

伏井 恵美



南加茂台在住

伏井 恵美さん

Born
天川村

奈良



南加茂台

京都

Based

シャッター通りに、

いつもと違う音がする

「こんにちは！」

シャッターが並ぶ通りに、今日はいつもと違う音がある。机を運ぶ音。紙袋がこすれる音。はじめましての声。いづつやの前に立つと、私は何度も同じことを考えてしまう。本当に、お客さん来てくれるかな。にぎわいって、どこか遠い世界のものだと思っていた。けれど、この日は目の前で、ひとつずつ音が増えていった。誰かが手を動かすたびに、場所の空気が少しずつ変わっていく。

好きなものに夢中だった幼少期

小学生のころの休み時間、私はよく運動場を歩いていました。目線はずっと足元。透明で、光ってる石が落ちてないかなって探していたんです。見つけたら鉛筆のキャップに詰めて、ときどきペンで色を塗って、キラキラを増やして。ひとりで黙々と集める時間が、私は楽しかった。友達が多いほうではなかったけど、ピースとか光るものとか、好きなものに夢中でした。中学も高校も、人の前に立つことはほとんどなく、文化祭の委員とか、前に出る役とか、そういうことは無縁でした。だから今、私が「マルシェを開く側」に立っていることに、たぶん自分が一番びっくりしています。

南加茂台で暮らし始めた頃のこと

南加茂台に住み始めたのは、夫の実家が近かったこと、住む家がもう決まっていたからです。本当は奈良、実家の近くに住みたい気持ちもありました。来たばかりの頃は、まちのことが分からなくて、「これからどう暮らしていこう」という気持ちが大きかったです。こどもが生まれるまでの2年間は、毎日のように実家に帰っていました。電車とバスで片道一時間半。夫が仕事帰りに迎えに来て、一緒に南加茂台へ戻る。朝は送ってくれる日もあって。今思うと、あの頃は、このまちを好きになる余裕がなかったんだと思います。好きとか嫌いとかの前に、生活を回すだけでいっぱいだった。はいでした。

変わったきっかけは、こどもの健診。健診で知り合ったつながりから、話せる人が増え、それだけで生活がパッと明るく変わりました。こどもが同じ年のママ同士で、誰かの家に集まって、お茶を入れて、昼ドラを見て、お昼ごはんも一緒に食べて。悩みも自然と共有する時間ができました。「南加茂台が好きっていうより、私の周りにいる人たちが好き。だから南加茂台も好きになった」そう言えるようになったことが、昔の自分からしたら、ちょっと信じられないです。



「使ってみる？」の一言から

マルシェをやりたい気持ちは、ずっと心のどこかにありました。十年前、木津川市の鹿背山であったマルシェに出たことがあって、それが本当に楽しくて、「こどもに手がからんようになったら、またやりたいな」と思っていました。

そんなときに出てきた、いづつやのリノベーションの話。声をかけてくれたのは、いづつやの幸さん。健診で知り合って仲良くなったママ友でもあって、「マルシェしたいんだったら、うち使ってみてくれへん？」その一言で、気持ちが動き出しました。

準備でいちばん大変だったのは、出店者集め。SNSで見つけて、二人で会いに行って、声をかけて。人見知りの私一人だったら無理だったと思います。でも、幸さんがいたから行けた。ここで言う「仲間」とは、背中を押す人というより、同じ速度で歩いてくれる人のことなのかもしれません。

※次回のマルシェは4月25日(予定)。



ディスコイベント?!



12月19日金曜日、黄昏どきの午後4時。南加茂台で「たそがれディスコ」がおこなわれた。主催は、パーキンソン病と付き合いながら暮らす、南加茂台在住の佐藤さん。このイベントは踊れなくてもいい。立っても座ってもいい。ただその場にいるだけで参加できる。ルールは、お酒とタバコが禁止なことだけ。当日は「たそがれ世代」だけでなく、毎日公民館に遊びに来ている子どもたちも参加した。大人から子どもまで、ふだんは交わらない人たちが、音楽をきっかけに同じ空間で過ごす場になった。

会場には懐かしい流れ、公民館が一気にディスコの空気になり、気づけば大人も子どもも、同じ曲で体を揺らしていた。

たそがれディスコのつくり手たち

Q&A

主催者の佐藤さん質問に答えます!



黄昏ディスコという名前は
どんなところから生まれたんですか?

若い人向けのクラブみたいなノリではなくて、たそがれ世代が安心して楽しめるディスコにしたいとこの名前にしました。

体調と付き合いながらも、
準備を続けられた理由は?

いっぱい踊りたい気持ちもあるけど、僕は音楽を聴いているだけでも好きなんです。だから、好きなことなら準備が大変でもやれる。人に頼られるというところはありがたいこと、これから先も続けていきたいです。



このイベントで
一番大事にしていることは何ですか?

ディスコの踊りって、ステップがきっちり決まっていなくていいです。だから「こう踊らなきゃ」ではなくて、自分が踊りたいように踊ってほしいです。座っていても踊れるし、病気がある人でも、体だけでなく気持ちの面でも参加できる場にしたいです。

音楽はどのように決めたのですか?

曲は僕の好きな曲を集めました。DJは僕の知り合いで、大阪から毎年来てってくれています。

こうやって南加茂台の人たちと関わってみて
どんな印象がありますか?

僕は病気になってから、最初は家にこもりがちでした。でも南加茂台で人と話すうちに、同じような思いを経験している人がいると知って、安心したんです。「自分だけじゃなかったんだ」と思えた瞬間が何度もありました。パーキンソン病の方も意外と身近にいて、話せる場があることに、少しホッとしました。



DJさん

ベンチに座っていた

風が思っていたよりやさしくて

木の葉が少しだけ揺れて

遠くの音が近くまで届いて

まだ何も決めていない

そのままでもいいような気がして

この時間がちょうどよかった



▷聴いてみてね



ながもの音

詩：栗本幸音

作曲：高田かなで

撮影：徳安博之（州見台在住）

住んで、 まちで、 楽しいことを。

楽しいこと
と一緒に。のの



地域って、最初は遠かった

僕の生まれ育った場所は滋賀県の小さなまちです。田んぼだらけで、カエルがゲコゲコ鳴きまわっているような、ど田舎で育ちました。バスは1時間に1本あるかないか。バス停まで歩いて行くという発想もなくて、最寄り駅までも30分。JRの駅なら自転車で20〜30分です。そう考えると、南加茂台の暮らしは交通の面でも環境の面でも恵まれていると思います。ただ、ここに引越してくるまでの僕は、まつりや地域の行事にあまり参加していませんでした。「地域」はそこにあるのが当たり前すぎて、自分の暮らしと結びつけて考えたことがなかったんだと思います。

Born
愛荘町 滋賀
▽
南加茂台 京都
Based



南加茂台自治会役員
ののむら しょういち
野々村 祥一さん

南加茂台にきた理由は「子ども中心」

僕は東京や埼玉、大阪など、いろいろな場所で仕事をしてきました。子どもが生まれてからは、賃貸のままではなく、子どもが小学校に上がるまでには家を決めよう、できれば引越しをさせたくないよね、という話になったんです。それで「子ども中心に家を考えよう」となって、妻の出身でもある南加茂台での暮らしが始まりました。

I live in Nagamodai.



クリスマスツリーつくったよ!!



牛乳パックで作ったクリスマスツリー

ママ友のつながりですべてのクリスマス会の様子はじめてのクリスマス会です。



自治会に入るきっかけは、

防災士の講座でした。

地域に関わるようになった入口は、防災士でした。二〇二二年に南加茂台に引越してきて、翌年の秋に防災士の資格を取りました。二〇二四年、防災士の集まりで地域防災について学ぶ会が開かれ、そこで自治会の役員の方と出会ったんです。その流れで「二〇二五年から一緒にやらないか」と声をかけてもらい、僕もやってみようと思いました。

「こんなに人が来てくれるんや」

僕の住む9丁目ではハロウィンのときにこどもがいるご家庭を中心に、各家庭をまわるハロウィンイベントをおこないました。それから昨年は、初めてクリスマス会を南加茂台にある集会所を借りてやってみました。クリスマス会は自治会の行事というより、妻のママ友つながりがきっかけです。声をかけたら「手伝いますよ」と言ってくれる人がいて、思ったよりスツと形になったんです。

ああいうときのママ同士のつながりは本当に、心強いなと思いました。

住んでいるまちで、楽しいことを。

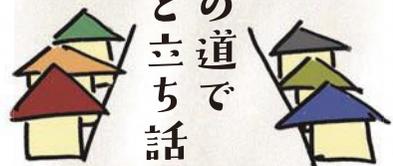
僕が南加茂台で大事にしたいのは、暮らしの中に「楽しい入口」があることです。難しい話より先に、まずは「ちょっと行ってみようかな」と思える場がある。そこで顔見知りが増えて、次につながっていく。住んでいるまちで、楽しいことを。そして、その楽しさを「一緒に」できる人を、少しずつ増やしていけたらと思っています。



10月下旬、大人も本気で楽しむハロウィンの様子

かぼちゃにへんしん!!

ながもの道で ちよつと立ち話。



南加茂台在住の野々村さん夫妻に話を聞いた。

野々村さんは今年度から自治会役員。

ふみさんは南加茂台で生まれ育った。

話題は自治会から昔のまつりへ、

そしてこれからの「集まり方」へ。

夫婦のテンポで聞いてみた、

南加茂台のこれから。

協力隊 今日は南加茂台の「まちのこ

と」を、おふたりの目線で聞きたいです。

自治会の話って、正直よく分からないままになりがちで。

野々村さん 南加茂台自治会って、地域

の団体なんですけど、法人化されていて「認可地縁団体」なんです。だから、

法人としてのルールがきっちり決まっ

てるんですよ。ルールを変えるには会員

の3分の2の同意が必要で、決められるのは5月の総会だけ。だから「試しに

やってみる」ことができないんです。

協力隊 そうなんです。知りませんでした！

野々村さん 自治会って、住民と市役

所の間に入る「仲介役」でもあるんです。例えば、街灯が消えてるとか、竹や

ぶがポーポーとか、公園の草が伸びてるとか。そういう困りごとって、一人が言っ

ても「検討します」で終わりがち。でも

自治会を通して「住民の声」として出すと、市も動きやすい。

協力隊 なるほど。自治会って、まちの

窓口なんです。

野々村さん ただ最近、自治会の会員

が減ってきていて。南加茂台の人口も、

二〇一七年から少しずつ減っています。

今はだいたい五千人くらい。ややこしいのは、世帯数はほとんど変わっていないの

に、会員世帯と人口は減っていることな

んです。昔みたいに家族の人数が多い

世帯が減って、ひとり暮らしや夫婦だけの世帯が増えてる。だから同じ活動

でも負担の感じ方が全然違ってきます。

ふみさん 親は自治会入ってたけど、何してるかは知らなかったな。

協力隊 ふみさんは南加茂台に元々

住んでいたとおっしゃっていましたが、いつから住んでいたんですか？

ふみさん 生まれたときから南加茂

台で、0歳から住んでるんですよ。途

中で奈良に10年くらい住んだけど、また戻ってきた感じ。家と近い年やねん。

協力隊 そうなんです！

ふみさん 当時は子育て世代が多かつ

たこともあって、自治会主催の南加茂

台まつりも土日の2日間開催。ことも

がたくさん参加してたよ。行くのが

当たり前くらいで、毎年行ってたな。

協力隊 南加茂台まつりは今は一日の

みの開催だけど、南加茂台ができた頃

は2日間もあったんです。

ふみさん ほんまにことも多かったか

ら、南加茂台の全世帯、同じ年くらいの

子どもがみんな住んでたみたい感覚じ

やっつ。

野々村さん まつりが2日間あるっ

て、いいよね。夕方くらいから、ちよつと

みんなで楽しめる時間ができるやん。近所の人とゆるく集まる、みたいな空

気が作れそう。

ふみさん たしかに。

野々村さん でも今は、同じ形で2日

間やるのはしんどい部分もあると思

う。だから、もうちよつと軽い形でやれ

たらいいなって。

協力隊 軽い形ですか？

野々村さん たとえば、公園でレジャーシートを敷いて、飲み物とかお菓子をちよつと置いて。「集まって何かする」と

いうより、座ってるだけでもいいんです。

ふみさん それ、気になる人は寄って

くるよね(笑)。

野々村さん 実はフランスに「隣人会」というものがあって、まさにそんな始ま

り方なんです。一人で公園に座ってた

ら誰かが話しかけて、そこから毎週

ちよつとずつ人が増えていく。

協力隊 最高です…。気軽に集まれ

るっていうのがいいですね。ご飯を持ち

寄ったり、本やCDを持ってくるとか。

「自分が持ってきたものが参加料」みた

いな形にすると、参加のハードルが下が

りそう。

ふみさん あったかくなったら、やって

みたいね。

協力隊 いいですね。自治会の会員世

帯や人口が減っていく中でも、こういう

「集まり方のアイデア」って大事ですね。

昔のまつりのようなにぎわいも、「隣人

会」みたいな集まり方からヒントをも

らえば、今の形できつくり直せそうです。

今日はありがとうございました！



話し手：野々村夫妻

聞き手：木津川市地域おこし協力隊 栗本幸音

他己紹介で見えてきた、 音楽隊メンバーの正体

初めてのラジオ収録。
今回のお題を出してくれたのは、メンバーの
みわちゃん。「他己紹介をしよう!」という提
案で、それぞれの「らしさ」を言葉にしてみ
ることになりました。
自分で言うより、他人に言われたほうが当たっ
ているし、だいたいちょっと恥ずかしいやつ。

好みがちよっと

おじさん?!
みわちゃんがバイトから帰ってくる
まで、私たち 2 人はお寿司を食べ
ながら待機。
テーブルの上には、「早い者勝ち」
の空気が流れていたはずなのに...
私の大好物、イカゲソが、しれっと
残ってる。
え、なにこれ。私の好み、バレてる?
かなでちゃんの優しさの出し方が職
人すぎて、ちょっと照れた。嬉しい〜。



お寿司が
好きな3人

だけど、 好きなネタがバラバラ

去年の春、**ゆぎねちゃん**と
卒業旅行で石川県へ。

「市場で板前さんのお寿司食
べよ!」って盛り上がったの
に、現地で値段を見て、
「……これ、一皿に覚悟いる
やつやんな」

結果、2人で取り分けるこ
とに。ここで普通なら揉め
るところだけど、私たちは
揉めなかった。なぜなら、
好きなネタがバラバラすぎ
て、そもそも奪い合いが發
生しなかったから。

私はサーモン、**ゆぎねちゃん**は
まぐろ。平和。

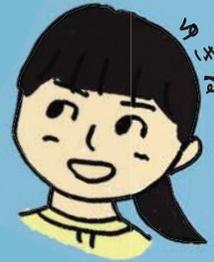
お寿司は高かったけど、関
係性は安定価格でした。

担当楽器：フィドル(バイオリン)
大学で物理を研究する大学院生。
頭はキレキレなのに、日常ではどこか
抜けていて、そのギャップが愛おしい。
かき氷が大好きでかき氷に目がない。



担当楽器：ティンホイッスル
ゆぎねの大学時代の友だち。
作曲家。『ながもの音』を担
当している。趣味はほうじ茶
と街中フォント探し。

担当楽器：バイオリン
木津川市地域おこし協力隊として、
情報誌『ながものがたり』を作っ
ている。気になることができると、つい
試してみたくなるタイプ。お菓子づ
くりと旅行が好き!



演奏中はしっかり者
でも、しゃべると

天然キャラ勃発!!

ながも音楽隊として演奏してい
るときの**みわちゃん**は、いつも
しっかり者。演奏技術も高く
て、音でバンドを引っぱって
くれる。

でも、楽器をケースにしまっ
た瞬間、急に天然になる。
そのギャップが場の空気をゆ
るめて、みんなを笑わせてく
れる。



ラジオ番組作ってみた! 第一回収録!

前からやってみたかった**ラジオ**に挑戦しました!

『ながものがたり』は紙の情報誌ですが、読む時間が取りにくい日
もあります。だから、紙とは別に、耳でも気軽に楽しめるものがあ
つたらいいなと思いました。

そんな思いと一緒に乗ってくれた、**ながも音楽隊**の女子3人で第一
回収録。

今回は「他己紹介」をテーマに、メンバーそれぞれの「らしさ」を言葉
にしてみました。



ここからまけるよ!



ここは、木津川市・南加茂台。



木津川市は、京都府の最南端に位置するまちです。奈良時代には一時的に都・恭仁京（くにきょう）が置かれた歴史があり、今も名残が地名に残っています。一方で、新しいまちづくりも進みます。古いものと新しいものが調和する場所でもあります。

その木津川市の南東部にあるのが、南加茂台（ながもだい）です。昭和54年から開発されたニュータウンで、これまでの約45年間に多くの人が移り住み、現在は約5千人が暮らしています。高齢化が進むなかでも、公民館では講座

やサークル活動がおこなわれ、地域の中には穏やかなつながりが続いています。

私はこの南加茂台を拠点に、「ライティング・コミュニケーター」として活動しています。地域おこし協力隊の一員として、まちの出来事を伝えるだけでなく、人の思いや日々の風景に耳を傾け、その言葉を自分なりに受け止めて発信しています。

与えられたミッションは「南加茂台の情報誌をつくり魅力を発信すること」。けれど、単なる情報誌ではなく、このまちで暮らす人の物語を届けたいと思い、「ながものがたり」という名前をつけました。「南加茂台（ながもだい）」で暮らす人たちの「物語（ものがたり）」を、取材や交流を通して紡いでいく。私は、誰かの当たり前に価値を見つけることを大切にしています。

『ながものがたり』が、読んでくださる方にとって、自分のまちのまだ知らない魅力を発見するきっかけになればうれしいです。

ちよびのぞいて ママまんが

落とす物



編集後記

『ながものがたり』を手にとってください、ありがとうございます。取材を重ねるたびに思うのは、まちの魅力って「有名な場所」よりも、ふとした会話や、何気ない手つきの中に宿っているということです。今回も、言葉の端々にある温度や、笑い方や間まで含めて、その人らしさをそっと残したいと思いながら編集しました。読み終えたあと、いつもの道が少しだけ違って見えたり、「こんにちは」が言いやすくなったりしたらいいなと思っています。次はあなたの声も、載せられますように。 栗本



木津川市地域おこし協力隊
【公式】Instagramで
日々の活動を投稿中!